

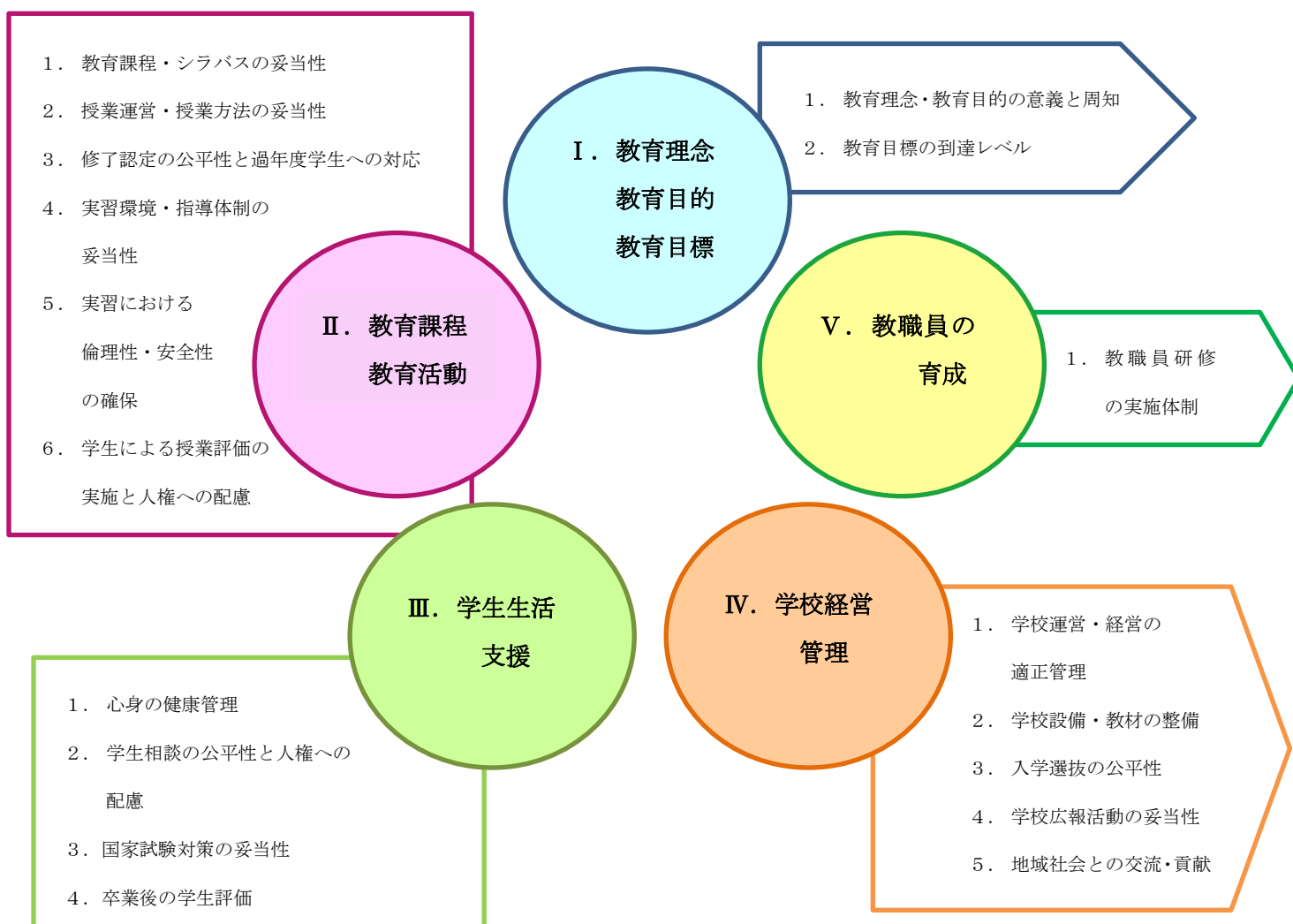
《学校自己点検・自己評価のねらい》

本校の看護基礎教育は、3年課程である第1学科は18年目、2年課程である第2学科は38年目を迎えました。准看護教育を含めると半世紀に及び教育活動を続けており、確かな実績と伝統に支えられています。地域社会や保健医療福祉領域に貢献する優れた看護師を育成するためにも、看護学校として質の高い教育体制を確立すること、学生にとって学習しやすい環境を整えることが重要だと考えています。

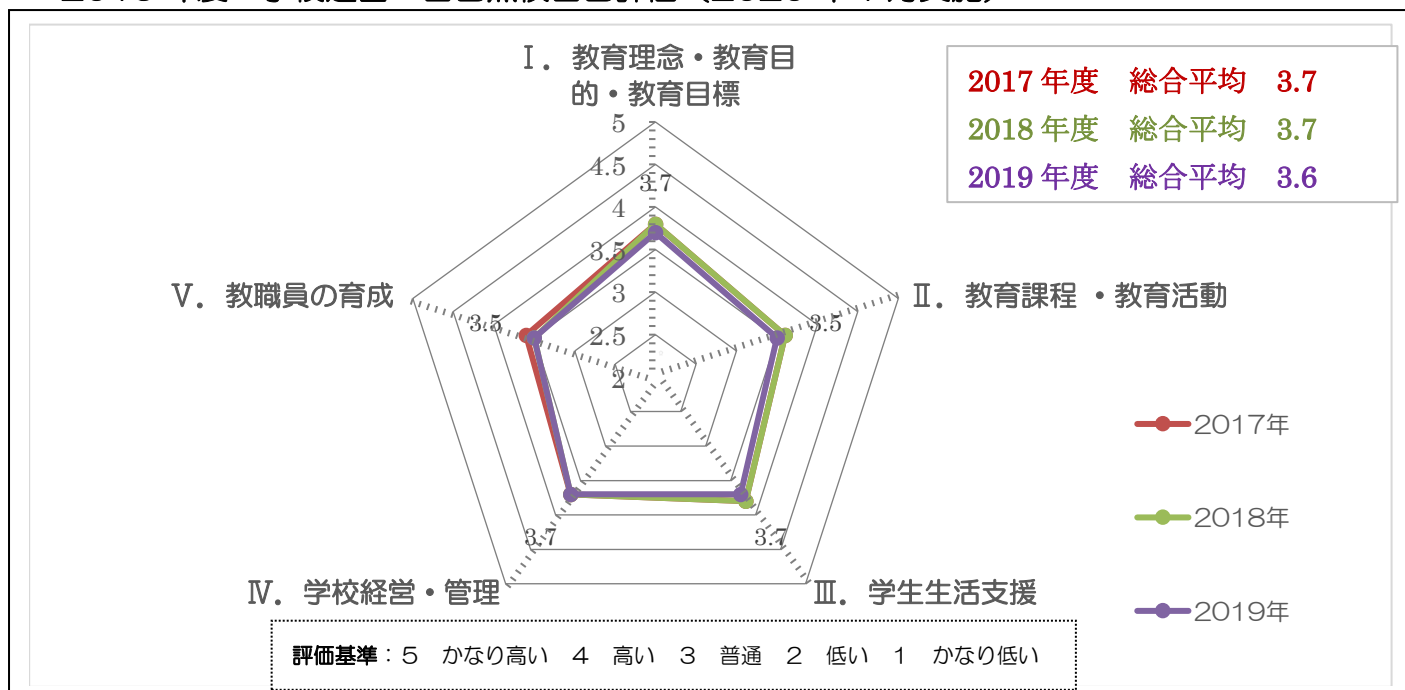
本校では時代の趨勢を見極めながら看護教育水準の向上を図るために、平成18年度から自己点検・自己評価委員会を発足させ、授業評価のあり方から議論を重ねてきました。そして、平成24年度から学校組織全体を総合的に「自己点検・自己評価」し、その結果を公開しています。

本校の基本理念である「人類愛」を実現し、「愛し愛される看護師」を育てるために、地域の皆さまや患者様から、また看護師を目指す若者・ご家族の皆さまから信頼され、「開かれた魅力ある学校づくり」を目指しています。本校の教育活動その他の運営状況について客観的に評価を行い、良い面はさらに伸ばし、また改善すべき点は明確にして、看護教育活動のさらなる向上を目的に努力し続けていく学校を目指し続けていきます。

《学校自己点検・自己評価の評価項目》



2019年度 学校運営 自己点検自己評価（2020年1月実施）



2019年度、教職員による自己点検・自己評価は、すべての項目で3以上でしたが、総合平均点は3.6と昨年度より0.1低下した結果でした。大項目の【I. 教育理念・目的・目標】【II. 教育課程・教育活動】【III. 学生生活支援】が0.1ずつ低下しました。【IV. 学校経営・管理】【V. 教職員の育成】は昨年度と同様でした。

評価の小項目では、4.0以上は、＜II-4. 実習における倫理性・安全性の確保＞と＜IV-5. 地域社会との交流・貢献＞で例年高い項目でした。特に、患者さんへの倫理的配慮に関しては、各実習前のガイダンスやオリエンテーションを徹底し、繰り返し指導するなど学生への意識付けをしていたことによるものと考えます。また、実習中のインシデントは、ミーティングや教員会議で必ず情報共有し、学生個々の指導を丁寧に行っている結果だと評価しています。一方、記録の管理面では課題もありますので、個々の学生への指導を徹底していきます。地域社会との交流では、小豆沢町内清掃を全学年で分担し行う活動を継続して実施していること、技術演習の際、模擬患者として小豆沢町内会の方に協力をいただき、効果的な演習が行えた結果であると評価しています。今後も地域との交流を継続して行っていきます。

評価項目の低いものは＜II-1 教育課程・シラバスの妥当性＞＜II-2 授業運営・授業方法の妥当性＞で、昨年度より0.2低下という結果でした。特に「講師間の連携と内容の重複や不足」と「時間割の調整」に関する項目が低い評価でした。これは、それぞれの科目内容等についてカリキュラム改正に向けて見直しを始めているため、課題が明確になってきていることとも考えられます。次年度は、カリキュラム改正に向けての検討をし、授業内容や担当講師等の見直しをしていきます。

「III-3. 国家試験対策の妥当性」は0.1低下し3.6となりました。国家試験の結果は、第1学科98.4%（64名中）、第2学科97.2%（36名中）でした（全国平均新卒者94.7%）。国家試験対策は、国家試験担当教員が指導計画を立案し、教員全体で補習講義や卒業試験に関ったり、卒業生や国家試験に精通している講師が補習講義等に関ったりと、学習の意識付けをしています。クラスの特性もありますが、やらなくてはいけないというエンジンがかかるまでに時間がかかる傾向にあります。また、個々の学習状況や理解度の差が大きいことから、1年次からの学習方法等の指導を含め自主的に学習するための方法を検討していきます。今年度の低学年の学習支援に関する補習講義は、学習希望者が参加したことでクラスの学習姿勢は整い、主体的に参加する学生が昨年より増加しました。終了後のアンケート結果も基礎的な知識の確認ができ学習を深めることができたという意見が多く、次年度も継続していきます。また、コミュニケーション能力の課題がある学生が増えていることから特別講習等も計画し、学生の特性に合わせた教育ができるように様々な教育方法や内容を工夫し教職員で努力していきます。